

こども教育会議 会議録（速記メモ）

日時	場所	出席	小松市長、松尾教育長、大庭教育長職務代理者 教育委員（馬場、山口、牟田、岡本、田中、井手） 秋月こども教育部長、諸岡こども教育部理事、 教育総務課（木村課長）、文化課（井手室長）、市民協同課（鳥越課長）、庭木企画部長、企画政策課（弦巻課長、小柳係長、野田）
令和4年10月26日（水） 13:30～14:30	武雄市役所 災害対策本部室		
1. 協議件名	第30回こども教育会議 （文化のまちづくりにおける子どもたちの役割）		

議事録

内容	<p>1 開会（進行：庭木企画部長）</p> <p>2 議事（議事進行：小松市長）</p> <p>(1)文化のまちづくりにおける子どもたちの役割</p> <p>①話題提供</p> <p>文化のまちづくり構想や事業内容、新文化施設エリア整備基本計画についての説明を行った。</p> <p>②意見交換</p> <p><出席者の意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な表現の形(文化)が途切れない様、それぞれの活動を継続してサポートすることが大切。 ・伝統を伝承するため、後継者不足などの課題について、官民一体で地域に寄り添うことが大切。 ・伝統芸能の伝承が課題である。地域の枠を超えた伝承活動が出来ないか。 ・伝統文化の伝承については、相互に負担にならない様な、時代にあった方法を取り入れていくべき。また、歴史から学び、誇りを持って伝承できるようにすることも大切ではないか。 ・「まちなか」が注目されがちだが、「まちわき」の考え方がないといけない。山内町・北方町の文化の伝承が課題である。 ・発表の機会をつくることで、こどもは「達成感」「感動」「自信」が得られ、それが文化の伝承につながる。 ・こどもに文化を担ってもらうためには、まずは生活している地域の文化を知ってもらうことが重要と考える。 ・企画展を映像で残したりすることで、作品に触れる機会が増やせるのではないか。 ・学校では学べない、郷土料理教室、焼き物教室など、地域性を学ぶことができるワークショップや、身体的コミュニケーションの素晴らしさが学べる性教育のワークショップなどを開催してみてもどうか。 ・学校の教育計画に、「地域文化に触れる学習」を組み込んだ方がいいのではないか。新任の先生も地域を知ることができ、こどもたちが地元を好きになれば、将来武雄を離れても武雄をPRしてくれることにつながる。 ・「武雄市は様々な企画に学生が参加できるため素晴らしい」という意見があった。今後もしんかんせんコンサートの様な市民参加型のイベントを開催したほうがいいのか。 ・地域資源の掘り起こしが重要である。デジタル技術を活用した地域資源一覧などの作成ができないか。 ・こどもがわくわくする環境をつくるのが、表現や文化につながる。大人もわくわくする気持ちを忘れてはいけない。 ・表現をすることが、思春期のこどもたちの心身により影響をもたらすのではないか。 ・指導者の育成、確保によって、こどもたちのやりたいことを文化、芸術に昇華させることが大切。 ・市民一人一人が表現出来る美術館の様な場所があってもいいのではないか。
----	---

- ・学校の学習にとらわれず、自由に表現（タブレットで描いた絵によるデジタルアート作品展、音楽活動、ダンス、演劇、ワークショップ）できる場所があった方がいいのではないか。また、鏡張りの部屋があれば、活動がし易いのではないか。
- ・重要文化財、公共施設等については、こどもたちだけでも安全に過ごし、自然と文化に触れることができる場所であってほしい。また、伝統工芸の屋外展示など、立ち寄りたくなるような仕掛けが作れたらいいのではないか。
- ・自由で主体的に活動できる場を提供すると、自然とこどもたちが活躍するため、空き家を利用した拠点の提供など、こどもたちの身近なところに居場所をつくれたらいいのではないか。
- ・新文化施設は、定期的に発表会が開催され、こどもたちの意欲が高まる場所としたい。
- ・新文化施設を全面ガラス張りにすることで、ダンス等の練習場所となり、こどもたちが集まるのではないか。
- ・こどもたちだけで、文化施設に行けるような交通手段等の仕組みがあってもいいのではないか。
- ・新文化施設に、全天候型の広場があれば人が集うのではないか。
- ・新文化施設に、異文化の理解（言語、料理、習慣など）や体験が出来る場所があってもいいのではないか。

（教育長）

- ・学校教育において、文化にどう触れさせるかが課題。教員がまず武雄の文化を理解しなければならない。
- ・伝統芸能については、小学生は地域の方の協力を得て学習の機会を設けているが、中学校での学習の機会が少ないことが課題である。
- ・デジタルの時代であるが、しんかんせんコンサートに参加したことで、本物に触れる機会の大切さを感じた。

＜市長の発言＞

- ・鉄道デザイナー水戸岡鋭治さんは、こどもたちの感動体験を意識してデザインされているが、その結果様々な世代の人を惹きつけている。文化のまちづくりにおいても、こどもたち目線で考えることは大切である。
- ・部活動においても、運動部と文化部を兼部し易くする等、文化に触れやすい環境をつくっていく必要があるのではないか。
- ・こどもたちが自由にやりたいことが出来る場とそれを許容する大人の雰囲気づくりが必要ではないか。
- ・情報が多すぎて、ストックされない社会になっていると感じる。空白の平成、令和にならないよう、地域で培ってきたものを記録に残すことが大切。
- ・小さい頃の記憶や経験は大切だと思う。文化施設エリアは、こどもたちが気軽に立ち寄ることができ、文化を身近に感じる場所としたい。

3 閉会（進行：庭木企画部長）